

ま
ち
の
話
題

快挙達成で喜びを報告
卓球中里クラブが全国の舞台で3位



先月号でお伝えした卓球中里クラブの全国大会出場ですが、8月20日(金)に出場メンバーと近村監督が役場を訪れ、全国大会で3位というかつてない好成績を、町長に報告しました。

8月中旬に行われた全国ホープス卓球大会に出場したのは、村上莉羽くん(中里小5年)、本間新くん(沖館小6年)、木村琢治くん(栄小6年)、木村輔くん(栄小6年)の4人。予選リーグ

初戦でいきなり敗れましたが、その後は勝利を積み重ね、グループ2位で通過。決勝トーナメントでも勝ち進み、準決勝で惜しくも敗れましたが、3位という好成績を持ち帰ってきました。戦いぶりをキャプテンの本間君は「チームワークで勝ち取った。初戦で自分が負けてしまい沈んだ雰囲気になったが、何とか2位通過を果たし、準決勝までこられた。ここまでできたら、いけるところまでがんばろうとリラックスして戦えた」と振り返りました。

選手を率いた近村監督は「出発の前日、町長から激励を受けたのでがんばることができた。

雨が降っても
元気に

子ども会ジュニア
リーダー研修会

7月29日(木)・30日(金)の2日間、基幹集落センターで子ども会育成連合会のジュニアリーダー研修会が行われました。

小学校4〜6年生までの8人が参加した研修会は、悪天候のため、キャンプ場ではなく基幹集落センターに場所を移しての開催でしたが、参加した子どもたちは、元氣よく楽しんでいました。

初日は、センター内でトレヴァー先生とのトランプゲームや、自炊の夕食、夜にはお祭り広場での花火大会などを行い、特に花火大会は大盛り上がりでした。



2日目は、スイカ割りのあと流しソーメンの昼食で解散となり、当初の予定とは違った研修会とはなりましたが、それぞれが楽しい思い出を作り、家路につきました。

佐々木さんに

100歳顕彰

8月8日(日)、五所川原市金木町の尾野病院で100歳到達の顕彰が行われました。

この日100歳の誕生日を迎えたのは佐々木さださん。町長からの顕彰状を親族と一緒に受け、100歳の節目を祝いました。

100歳のお誕生日、おめでとうございました。

第6回健やか
少年野球大会開催

8月5日(木)〜6日(金)にかけて、小泊ふれあい運動場で第6回健やか少年野球大会が、8チームの小学生チームが参加して行われました。

この大会は「若い芽を健やかに伸ばそう」をスローガンに町教育委員会が行っているもので、8月4日〜5日の開催予定でしたが、雨のため中学校の部が中止になり、小学生のみの参加となりました。

開会式では、加藤教育長が「がんばった練習の成果を存分に発揮して、悔いのないよう戦ってください」と選手を激励。前日の雨とは違って変わった晴天のもと、小学生球児が元氣いっばいに白球を追い、観客からはプレーのたびに歓声があがっていました。

町内チームの結果は次のとおりです。

- 準優勝 武田クラブ
- 第3位 中里北光クラブ
- 第3位 薄市クラブ



博物館



学芸員養成課程のメニューとして行われる「博物館実習」を、町博物館がこのほど受け入れ、3人の学生が同館で実習をしました。

やってきた実習生は、三上優さん(東北芸術工科大学4年)、安田有美香さん(弘前学院大学4年)、須藤由貴さん(弘前学院大学4年)の3人。学芸員を目指す動機は「高校の時から興味があった」「三上さん)、「勉強してみるとおもしろいことに気づいた」(安田さん)、「何か資格を取りたくて始めたがおもしろい」と三者三様。7月30日(金)〜8月12日(木)までの2週間、数多くの実習を一生懸命こなしていました。

この中でも、8月7日(土)に行われた博物館たんけん隊、博物館PR活動(真夏のストープ列車参加)

は、他の博物館ではあまり体験できないユニークな実習で、3人も博物館実習でこんなことがあることにびっくりした様子。子どもたちと一緒にものづくりをしたり、暑いストープ列車で博物館のPRチラシを配ったりなど、貴重な体験だったようです。

実習の感想を聞いてみると、「地道な作業から始まる博物館の業務が理解できた」(三上さん)、「お客様の立場ではわからない博物館の忙しさがわかった」(安田さん)、「他の大学の学生と実習することで、学ぶところが多かった」(須藤さん)とそれぞれ充実感を語っていました。



将来を見据えた若者たち 町博物館・環境整備課で実習



8月19日(木)〜9月1日(水)にかけて、町役場環境整備課で大学のインターンシップを受け入れました。

やってきたのは、向町地区出身の工藤祐梨さん(宇都宮大学3年)。実習では、測量や製図、舗装の穴埋めなど、土木工事に必要な技能の習得に励みました。

8月26日(木)は、袴腰岳の林道改良工事の測量を行っていた工藤さん。実際に工事が行われている現場での測量は初めてで、久しぶりの測量に戸惑いましたが、親切に指導してくれたのでスムーズにできました」とほっとしたよう。

工藤さんは「もともとは建築家になりたかったけど、橋や川辺の環境づくりなど、大きな事業もやりがいがありそう」ということから、この道を目指したとのこと。

環境整備課

金魚ねぶたづくり教室

中央公民館で開催



中央公民館で8月2日(月)〜3日(火)の2日間、恒例の金魚ねぶたづくり教室が開かれました。

今回の教室は、武田小学校放課後子ども教室とのタイアップで行われ、同校の教室参加者を中心に、親子の参加など総勢55人での教室でした。

取材の日は2日目で、前日に骨組みや紙貼りを行った金魚ねぶたに、この日は色づけや仕上げを行っていました。

参加者は、講師の古川敏夫さんの指導のもと、鉛筆で下絵を描き、筆を使ってロウで絵柄を描き上げ、最後に色づけをしてねぶたを完成させていました。

参加した小学生は「難しいけどおもしろい、楽しい」と感想を述べ、「おうちを持って帰って、車庫や玄関に飾りたい」と、飾るのを楽しみにしている様子でした。

ウォーキング団体が町を出発

8月24日(火)、津軽半島をウォーキングで1周する「吉田松陰・宮部鼎蔵／立志体験津軽半島150kmウォーク」参加者が役場前に集合しました。

同ウォークは日本ウォーキング協会などが行っているもので、津軽半島を1周する150kmの道のりを1週間かけて歩くイベントです。

県庁前の青い森公園を出発した53人の一行は、23日に町に到着。この日、五所川原市の立佞武多の館に向けて一斉に歩いて出発しました。

副会長の中嶋與志久さんは「峠は昨日越えた。今日は楽しみながら歩きたい」と出発前の感想を話していました。



ジャンボなスイカに驚きと笑顔

大沢内地区の木村孝一さんが、このほど直径約35cmもあるジャンボスイカを収穫しました。

このスイカは、5月の初め頃に植え付けられたもので、木村さんによると「特別なことはしなかった。普通は一定の大きさに成長が止まるものだが、このスイカは止まらなそう感じたのでそのまま栽培してみた」そうで、8月2日に収穫しました。

手に取ろうと持ち上げてみましたが、約15kgもあるせいか、簡単には持ち上げられないスイカで、取材したときは仏様に供えていました。その場でバスケットボールと比べてみると、その大きさがよくわかります。

木村さんにスイカをこの後どうするかたずねると「お盆にみんなで食べる」そうです。



ピュア横の体験農園で8月25日(水)、小泊保育所じゃがいも収穫体験が行われました。

じゃがいも収穫で食育

小泊保育所が収穫体験

この体験会は、中泊町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」(会長・神かづ子)が行ったもので、「食育をテーマにした体験や学習を、学校・保育所に声をかけてみてはどうか」というアイデアから、今回実施されたものです。

この日は薄曇りの天気で、収穫にはちょうどいい天気。神会長がじゃがいもの掘り方を説明したあと、同保育所の年長児22子どもたちは、お目当てのじゃがいもを見つけたら、大きな声を上げて喜んでいました。

一通り掘ったじゃがいもは、1人3個をビニール袋に入れてお持ち帰り。われ先にと大きいじゃがいもを袋に詰め、「晩のおかずは何がいいかなー」と気をもむ子もいました。

収穫体験後は、子どもたちが大好きなおやつ時間。この日は、かけはしのメンバーが用意した粉ふきいも、メロン、枝豆、プチトマトといった豪華なメニューで、子どもたちも喜んで食べていました。

最後に、今日の収穫を準備してくれたかけはしの皆さんに、子どもたちからダンスのプレゼント。元気よく踊る姿に同会のメンバーたちが目を細めていました。子どもたちは「楽しかった。」

静和園夏まつり

わまやまなアトリ クニシヨンを楽しむ

8月5日(木)、特別養護老人ホーム「静和園」玄関前で、同園の夏まつりが行われ、入所者を中心にたくさんの人たちがアトリクニシヨンを楽しみました。

この夏まつりは、同園とその家族会が主催して毎年行われるもので、社会福祉協議会の職員などが出店を出したほか、アトリクニシヨン(健康ダンス「ベネ子ちゃん」の演舞、「夢幻天舞」によるよさこい披露、「中里三味線会」の演奏)が行われ、会場は大きな拍手と歓声に包まれていました。

